

持続可能な社会を実現するための 地域及び企業の環境活動

京都産業大学 法学部

焦ゼミ 8名

目的

企業及び地域の環境活動についてのインタビューとフィールド調査を通して環境保全についてのローカルな仕組みを理解し、持続可能な社会を実現するための政策提言を行うことを夏から環境に配慮した企業への調査を進めてきました。実践的な政策案を作成することを目標に企業調査や社会研究を実施。

アマタホールディングス株式会社 Interview

アマタ本社にてインタビューをしました。

- 1、バイオガスの今後の展望
- 2、個人向けの再資源化の支援対策
- 3、食糧の大量輸入、大量廃棄について



■代表者 代表取締役会長兼社長 熊野 英介

■京都本社住所
〒602-8024 京都府京都市上京区室町通丸太町上る大門町253番地

■資本金 474,920,000円 (2013. 3/31現在)

■設立 2010年1月4日

■社員数 161名（連結）(2013. 3/31現在)

アマタ本社では地元にもともとあるものを有効活用していくことを推進。大規模なものではなく、小さいけれど自分たちが使えるだけの技術、量だけで持続していく社会。そうすることによって素人でも被災地のような場所でも雇用が生まれるという考え。

協力企業・団体

- 土山印刷株式会社
- 株式会社ウエダ本社
- アマタホールディングス株式会社
- 京丹後市エコエネルギーセンター



▲京丹後市役所のインタビューの様子

【地域・行政・企業のつながり】

京丹後市役所、住民、アマタ本社・エコエネルギーセンターの3つが協力し合い地域循環の仕組みを作ることで持続可能な社会への形成を進めている。

京丹後市エコエネルギーセンター 見学

【訪問先】

京丹後市大宮庁舎 泣き砂文化館 森林公園スイス村 京丹後循環資源製造所 常吉村営百貨店

= = = = = 背景 = = = = =

- 03年～08年に実施されたNEDO(新エネルギー・産業技術開発機構)によるマイクログリッドの実証研究「京都エコエネルギープロジェクト」の施設として建設された。
- 05年7月より稼働し、2008年3月に実証研究を終了。
- 2009年10月8日にNEDOから京丹後市へ無償譲渡され、アマタ(株)が指定管理者として運営。
- 事業内容
食品残渣等の発生品をメタン発酵し、電気・熱エネルギー化
グリーン電力の発電及びグリーン電力証書発行
メタン発酵後の副産物（液体）を肥料化
メタン発酵後の副産物（固体）を肥料化
- 所在地 〒627-0143 京都府京丹後市弥栄町船木小字キコリ谷301-1



▲堆肥の説明を受ける様子



▲食品残渣、生ゴミを利用した堆肥



▲食品残渣受け入れ倉庫

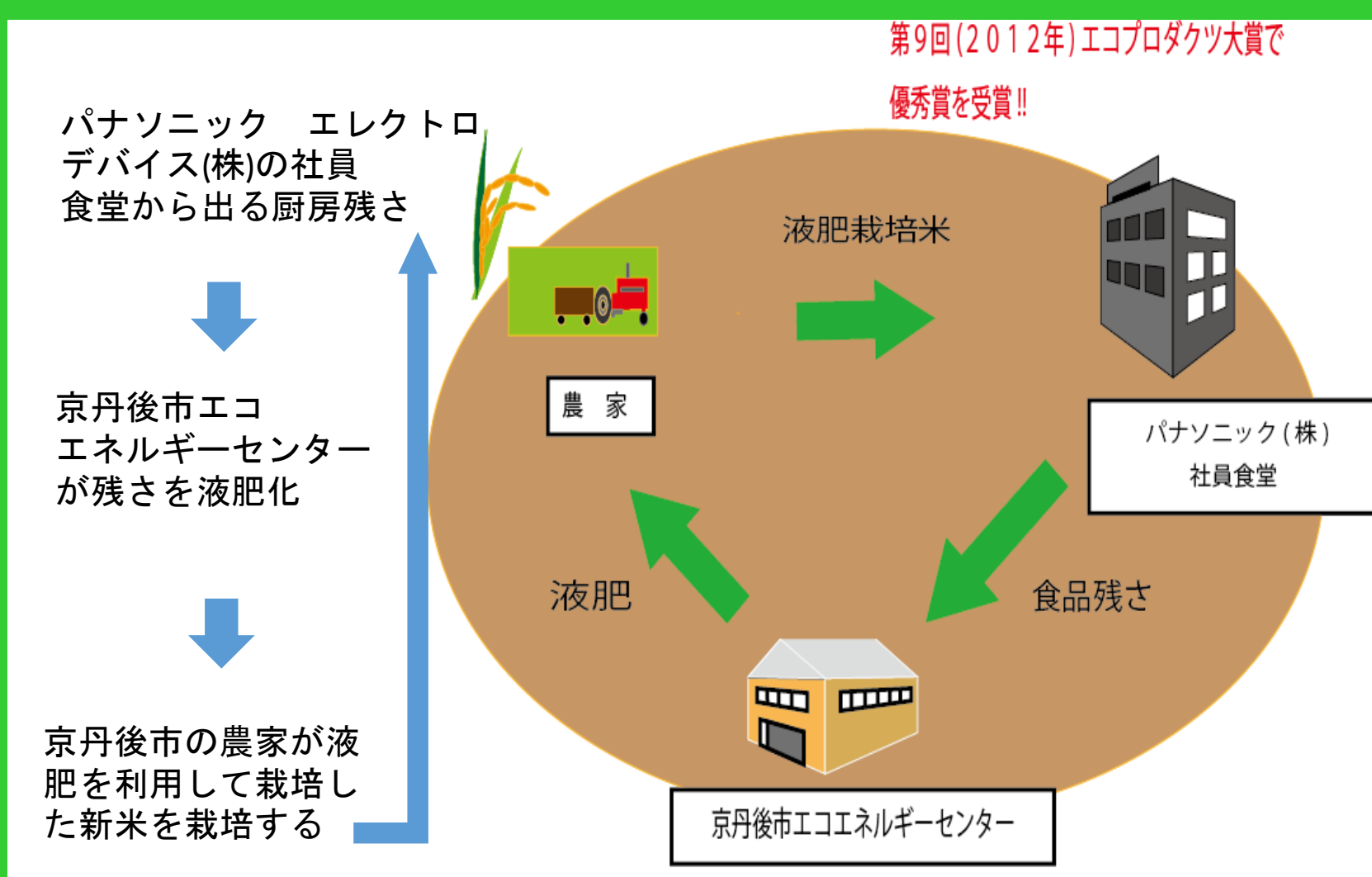


▲食品残渣生ゴミから抽出したバイオガスを利用した発電

感じた魅力とは

- 元々あるものを生かす、高い技術が必要としない技術の定着化を進めること。
- 食品残さず、生ゴミ等を未利用系資源として受け入れ100%を液肥化し、地域住民に使用してもらうことにより、食の循環を作り出したこと。

食循環への取組



課題分析

地域の環境活動が活発なものであっても、社会の認知が低ければ意味がないと考えました。

環境保全の認知度を高めることが重要

例 京丹後市へのツアーなどのブログ
ラムに環境の取り組みをPRするなど

例 液肥を使った稲作、田植えなど

